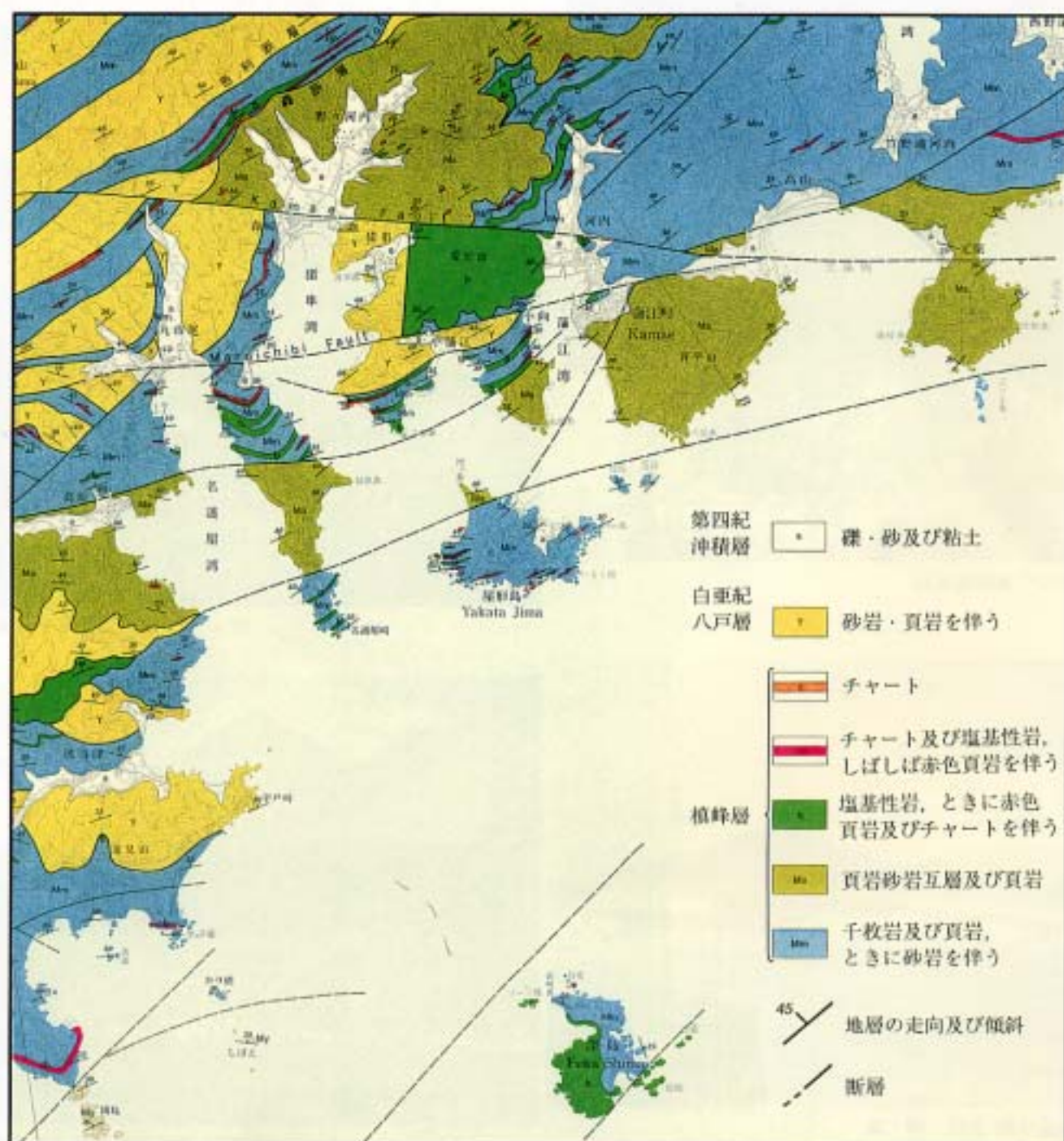


蒲江の岬と島々の自然史

地域の概観

豊後水道西部の日豊海岸南部に位置する蒲江町の名護屋湾・屋形島・深島を中心とした海岸地域は典型的なリアス式海岸として知られています。海岸のほとんどが海の侵食作用（海食）でできた岩石海岸で特徴づけられますが、一部に堆積作用による砂や礫の海岸も分布しています。古い時代の海底が相対的に隆起した結果作られた海成段丘などの地形はこの地域には分布しませんので、日豊海岸では基本的には沈降が続いていると考えられます。



蒲江の地質（奥村ほか、「蒲江地域の地質」1985、地質調査所による）

岬と島々の地質

日豊海岸の地質は、中部地方の諏訪湖南方から太平洋に沿って東西に帯状にのびる四万十帯に属し、四万十層群を構成する白亜紀や古第三紀の地層によって構成されています。四万十層群は、主に砂岩、頁岩や種々の割合の砂岩と頁岩の互層からなり、層準によって塩基性岩とチャートを伴う厚い海成層です。この地域は槇峰層と八戸層からなります。

地域的にみると、名護屋半島およびその西方地域は槇峰層の分布地域で、千枚岩と頁岩を主とし、ときに砂岩を伴います。また塩基性岩やチャートを多くはさんでいます。

屋形島の東側海岸線から南側にかけては全体が層理の発達した頁岩層でおおわれています。西側の海岸の一角には頁岩・粘板岩の泥質岩の中に砂岩、石灰岩、チャートをレンズ状に挟んでいるのが特徴です。

深島には玄武岩溶岩、玄武岩凝灰岩、粗粒玄武岩、斑れい岩からなる塩基性岩の岩体（深島岩体）が分布します。これは溶岩が海底で噴出し、表面が急冷され同心円状の構造となったもので、深島では直径が5～10cmの枕状溶岩が多く小型です。これらの岩石はいずれもプレート運動により付加体として形成されたものと考えられます。

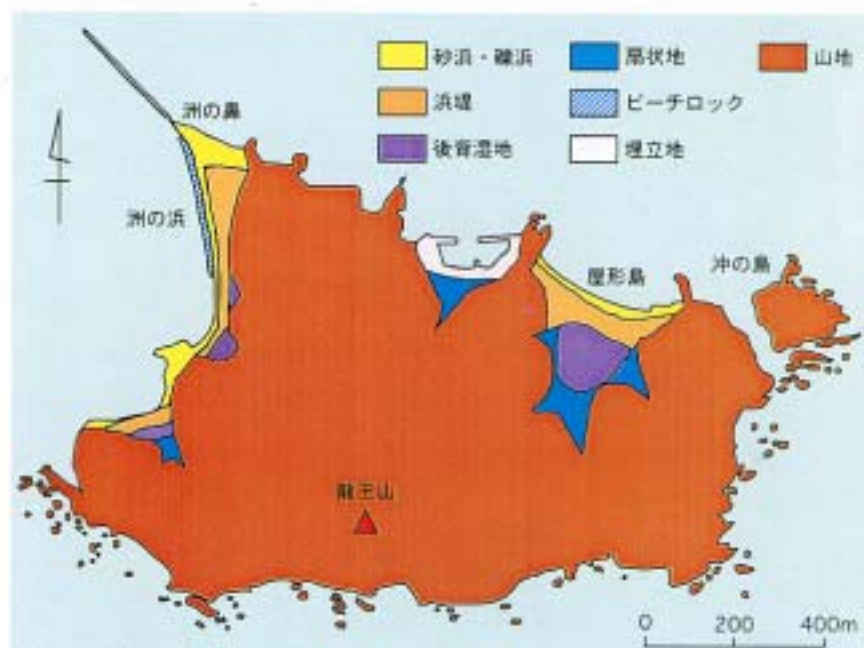


宇戸崎の海食洞門
八戸層の砂岩・頁岩からなる。

岬と島々の地形

名護屋半島およびその西方地域の海岸には海食崖が広く発達します。また波食台が発達する部分も多く、特に名護屋半島の東岸部には海面上5m前後の高さの波食台が広くみられます。また海食洞が多く、離れ島に海食洞が発達し海食洞門になったものも、宇戸崎にみられます。堆積による砂浜は葛原、波当津、池浦浜などの名護屋湾西岸部にみられます。

屋形島の洲の鼻は砂や礫からなる砂嘴です。日豊海岸の中では砂嘴は入津湾の入り口の洲崎とこの2ヶ所しかみられません。洲崎の砂嘴は先端が湾内の方向へ曲がる鉤状砂嘴で、洲の鼻の砂嘴は鋭角三角形の先のようにとがったカスプ状砂嘴です。洲の鼻から南へのびる洲の浜の海岸線に沿ってビーチロックが分布します。ビーチロックは日本では沖縄県と鹿児島県のサンゴ礁分布地域に主として分布しますが、それ以外では長崎県五島



屋形島の地形



屋形島の全景

右端が洲の鼻のカサブタ砂嘴。



屋形島のビーチロック

海側ゆるく、陸側に急に傾き、ミクロケスタの地形を示す。

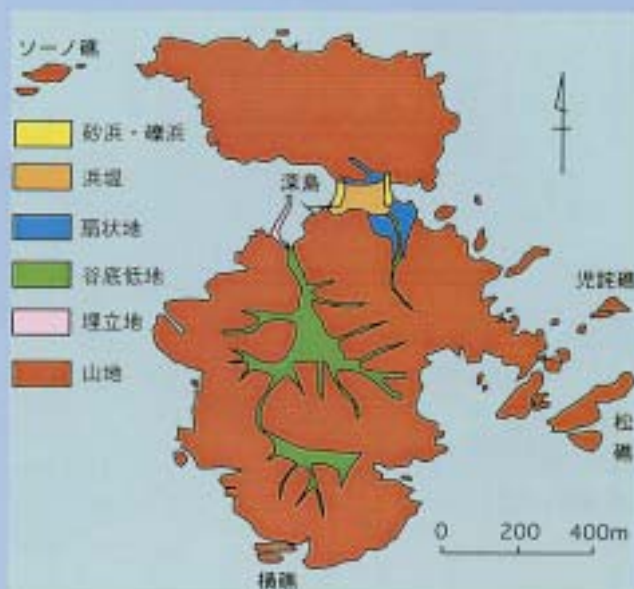
列島と野母半島、大分県蒲戸と屋形島（洲の浜）、千葉県館山、福井県越前海岸、石川県能登半島で報告されているにすぎません。屋形島のビーチロックの表面や、その上に堆積した礫の上部は白色の生物分泌物でおおわれています。また、その部分は非常に硬くなっています。

深島の中は砂洲ですが、いわゆる陸けい砂洲ではなく、波食台が作られた上に、薄い砂や礫が堆積したものと思われます。深島の海岸はほとんどが岩礁タイプ、いわゆる荒磯で、海食崖が直接海に臨みます。岩礁の多い海岸（礁）は海食により離れ島になったものです。とくに東部と北部に多く、松礁、児宅礁、白礁、白礁、ソーノ礁などとよばれています。また、海食洞やノッチは島の北東部海岸で3つのレベルのものが認められます。低位のものは現在の海水準に対応するもので、中等潮位のレベルにあります。中位のものは高さが海拔4～5mくらいにあり、その前面にプールが形成されていて、暴風的な状態で海水が入ると思われます。高位はそれよりもさらに4～5m位高く、縄文海進時の高海水準の記録を示している可能性もあります。



深島北東岸の海食洞・ノッチ・波食台

高・中・低位のレベルがあり、高位のものは縄文海進時の高海水準に対応する可能性がある。



深島の地形



岬と島々の成り立ち

この地域は、これまで述べたように典型的なリアス式海岸をなしています。そして、海食崖、波食台などの海食の地形が卓越しています。一方、沈降海岸を特徴づける各種の小規模な堆積の地形はバラエティに富み、カスプ状砂嘴や砂浜などが分布します。これらはリアス式海岸のもう1つの側面であり、また九州では珍しい、ビーチロックもみられます。

この地域の海岸地形は、いまからおよそ2万年前の最終氷期に現海水準下130mほど低下した後の海面上昇により形成されました。しかし単純な海水準の変化ではなく、6000年前頃の縄文海進により内陸方まで海が入り、最終的なリアス式海岸が形成されました。その時の海水準は大分平野ではおよそ現海面上3mです。その後の海面低下に伴い、河川が運んできた砂や礫により平野が広がりました。しかし縄文海進による高い海水準の証拠が多くみられないことから、他地域のような高海水準の状況が日豊海岸の広い範囲にみられたかどうかはわかりません。



深島の海食崖
礫峰層の基壇性岩からなる。